

# 聖獣「麒麟」の目指す先

## —酒税改定後の戦い方③—

### 仲間と共に広げるクラフトの裾野

麒麟ビールが推し進めているクラフトビール事業の特長は、他のクラフト・ブルワリーと一緒に進んで、すそ野の拡大を図っていることだ。シリーズ最終回は、そんな麒麟の想いを具現化した「SPRING VALLEY」に焦点を当てる。(石母田健)

「ピルスナータイプがほとんどであった日本のビール市場だが、本来はビールの楽しみ方もっと沢山あることを知ってもらいたい。多種多様なビールを体験して欲しい」ということから始まった。

今年6月に東京・六本木で開催された「ハロークラフトビールワールド」には、麒麟の「トップ・マルシェ」に参加しているブルワリー計13社が集結し、全24種の多様なクラフトビールを提供。クラフトビールだからこそ体験できる飲み方・食の提案を、ブルワリーのストーリーという3つの切り口で展開して非常に好評だった。

「久保マネージャー」は、こう説明する。そして、「SPRING VALLEY」ブランドが目指すのは、クラフトビールの垣根を低くして、先ずは手に取っていただき、そのおいしさに気づいていただくこと。クラフトブルワリーの皆さんと一緒に日本にクラフトビールの市場を創造していくことに何よりの喜びを感じる」とする。

今年6月に東京・六本木で開催された「ハロークラフトビールワールド」には、麒麟の「トップ・マルシェ」に参加しているブルワリー計13社が集結し、全24種の多様なクラフトビールを提供。クラフトビールだからこそ体験できる飲み方・食の提案を、ブルワリーのストーリーという3つの切り口で展開して非常に好評だった。



このように、



クラフトビールのすそ野拡大を第一の目的として開発された「SPRING VALLEY」ブランドの第一弾は、21年3月に発売された「SPRING VALLEY 豊潤(496)」。口に広がる麦のうまみとホップの上品な香り、豊潤でありながらすっきりとした綺麗な後味が特長のブランドを代表するビールだ。

22年9月には、「同シルクのエントリー層に受け入れられると自負している。RTDには色々なフレーバーがあり、それが成長の要因の一つでもある。ビールにも色々な香りがあっても不思議ではない。風味はもちろんだが、香りでもピルスナー一辺倒だった日本のビールへの意識を変えていきたい」。さらに、12月にはブランド初となる缶商品の黒ビール「SPRING VALLEY After dark」を発売。きめ

細かな泡と、華やかな香り、シルクのような上質でまろやかな口当たりが特長で、クラフトビールにありがちな、苦みへの苦手意識を一変させた。そして今年10月に追加されたのが、「同JAPANA L E(香)」だ。久保マネージャーはこの新商品について、次のように説明する。「新しい切り口として、香り」を前面に押し出した。希少な日本産ホップを一部使用した、爽やかな柑橘のような香りが特長で、心地よい上質な苦みに、すっきりとした後味のペールエール。これまでとは異なるおいしさで、ビール初心者や女性を含め、多くのエントリー層に受け入れられると自負している。RTDには色々なフレーバーがあり、それが成長の要因の一つでもある。ビールにも色々な香りがあっても不思議ではない。風味はもちろんだが、香りでもピルスナー一辺倒だった日本のビールへの意識を変えていきたい」。さらに、12月にはブランド初となる缶商品の黒ビール「SPRING VALLEY After dark」を発売。きめ

限定商品として発売。年末年始需要での選択肢を増やす。他のクラフトブルワリーとの協業をベースに、こうした「SPRING VALLEY」での取り組みが徐々に認められ、クラフトビールへの興味と、クラフトビールを取り扱っているお店・飲んでいる人を良く見かけるといった項目のスコアが上昇してきている」という。しかし、久保マネージャーは、「多くの成果を得ることができた反面、もともとクラフトビールを知っていた人々の課題も増えている。クラフトビールは、興味を持つ人を一人でも増やしていくことが願いでもあり、私たちの使命だ」と、久保マネージャー。「他のクラフトブルワリーの皆さんとのより親密な連携と、『SPRING VALLEY』ブランドのラインナップ強化で、新しいビールファンを創造してきた。また、国産ホップ農家の皆さんとの協業にもより力を入れ、ワインウインの関係を深めてきたい」とする麒麟ビールの取り組みは、まだ始まったばかりだ。

限定商品として発売。年末年始需要での選択肢を増やす。他のクラフトブルワリーとの協業をベースに、こうした「SPRING VALLEY」での取り組みが徐々に認められ、クラフトビールへの興味と、クラフトビールを取り扱っているお店・飲んでいる人を良く見かけるといった項目のスコアが上昇してきている」という。しかし、久保マネージャーは、「多くの成果を得ることができた反面、もともとクラフトビールを知っていた人々の課題も増えている。クラフトビールは、興味を持つ人を一人でも増やしていくことが願いでもあり、私たちの使命だ」と、久保マネージャー。「他のクラフトブルワリーの皆さんとのより親密な連携と、『SPRING VALLEY』ブランドのラインナップ強化で、新しいビールファンを創造してきた。また、国産ホップ農家の皆さんとの協業にもより力を入れ、ワインウインの関係を深めてきたい」とする麒麟ビールの取り組みは、まだ始まったばかりだ。

限定商品として発売。年末年始需要での選択肢を増やす。他のクラフトブルワリーとの協業をベースに、こうした「SPRING VALLEY」での取り組みが徐々に認められ、クラフトビールへの興味と、クラフトビールを取り扱っているお店・飲んでいる人を良く見かけるといった項目のスコアが上昇してきている」という。しかし、久保マネージャーは、「多くの成果を得ることができた反面、もともとクラフトビールを知っていた人々の課題も増えている。クラフトビールは、興味を持つ人を一人でも増やしていくことが願いでもあり、私たちの使命だ」と、久保マネージャー。「他のクラフトブルワリーの皆さんとのより親密な連携と、『SPRING VALLEY』ブランドのラインナップ強化で、新しいビールファンを創造してきた。また、国産ホップ農家の皆さんとの協業にもより力を入れ、ワインウインの関係を深めてきたい」とする麒麟ビールの取り組みは、まだ始まったばかりだ。

限定商品として発売。年末年始需要での選択肢を増やす。他のクラフトブルワリーとの協業をベースに、こうした「SPRING VALLEY」での取り組みが徐々に認められ、クラフトビールへの興味と、クラフトビールを取り扱っているお店・飲んでいる人を良く見かけるといった項目のスコアが上昇してきている」という。しかし、久保マネージャーは、「多くの成果を得ることができた反面、もともとクラフトビールを知っていた人々の課題も増えている。クラフトビールは、興味を持つ人を一人でも増やしていくことが願いでもあり、私たちの使命だ」と、久保マネージャー。「他のクラフトブルワリーの皆さんとのより親密な連携と、『SPRING VALLEY』ブランドのラインナップ強化で、新しいビールファンを創造してきた。また、国産ホップ農家の皆さんとの協業にもより力を入れ、ワインウインの関係を深めてきたい」とする麒麟ビールの取り組みは、まだ始まったばかりだ。